

神戸大学 大学文書史料室

Kobe University Archives

神戸大学百有余年の
伝統ある歴史が
今ここに…



年次報告書 令和4年度

ご挨拶

神戸大学大学文書史料室は、平成 22 年 4 月 1 日に設置された神戸大学公式アーカイブズです。その目的は、本学の法人文書のうち歴史資料として重要な文書として移管されたもの、寄贈・寄託されたもの、その他本学の歴史に係る資料を保存するとともに、一般の利用に供することにより、国から「国立公文書館等」（＝国立公文書館に類する機能を有する施設）に指定されています。

本報告書は、令和 4 年度に大学文書史料室が実施した様々な事業を整理したものであり、いわば各事業の実績に関する自己評価に相当するものです。本報告書を通して、多くの方々に大学文書史料室の活動をご理解いただくとともに、これからの大学文書史料室の運営に関して忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

目次

1. 法人文書移管受入れ等

1-1. 法人文書移管協議	1
1-2. 法人文書等の受入れ状況	2
1-3. 目録入力	3

2. 利用状況等

2-1. 利用状況	4
2-2. デジタル・アーカイブの充実及び史料原本保護のための電子化	5
2-3. 展示会の開催	6
2-4. 他機関等からの見学受入れ	8
2-5. レファレンス対応	8

3. 研修その他

3-1. 研修の実施	9
3-2. その他	10

沿革	12
----	----

歴代大学文書史料室長	12
------------	----

令和 4 年度 評価と課題	12
---------------	----

大学文書史料室概要（令和 5 年 4 月 1 日）	
---------------------------	--

本報告書は、令和 4 年度における神戸大学大学文書史料室の活動をまとめたものです。数値は、令和 5 年 3 月末時点のものを基本とします。

1. 法人文書移管受入れ等

1-1. 法人文書移管協議

【事業計画※】

(※令和4年3月14日大学文書史料室運営委員会承認)

令和4年度における法人文書移管協議(評価選別及び現物確認を含む)は、次のとおり実施する。

● **年間スケジュール(予定)**

12月～2月 全学の「法人文書ファイル管理簿」(総務部総務課の取りまとめで12月頃完成予定)を基礎データとして「法人文書移管協議のための台帳(移管協議台帳)」案を作成し、全学の文書管理者との移管協議を実施する(法人文書の評価選別と現物確認を含む)。

2月～3月 大学文書史料室運営委員会において移管又は廃棄の措置について審議決定し、その結果を室長名で総括文書管理者(事務局長)に報告する。

● **対象**

移管協議の対象は、次のとおりとする。

対象: 令和4年度末(2023.3.31)に保存期間が満了するもの

- 令和4年度における法人文書移管協議は、当該年度末に保存期間が満了する神戸大学法人文書計3,849件を対象に2月3日から3月23日までの約1ヶ月半実施され、移管913件(移管率24%)、廃棄2,750件、保存期間延長186件が決定した。この協議結果に基づき、移管の受入れを令和5年度に実施予定である。

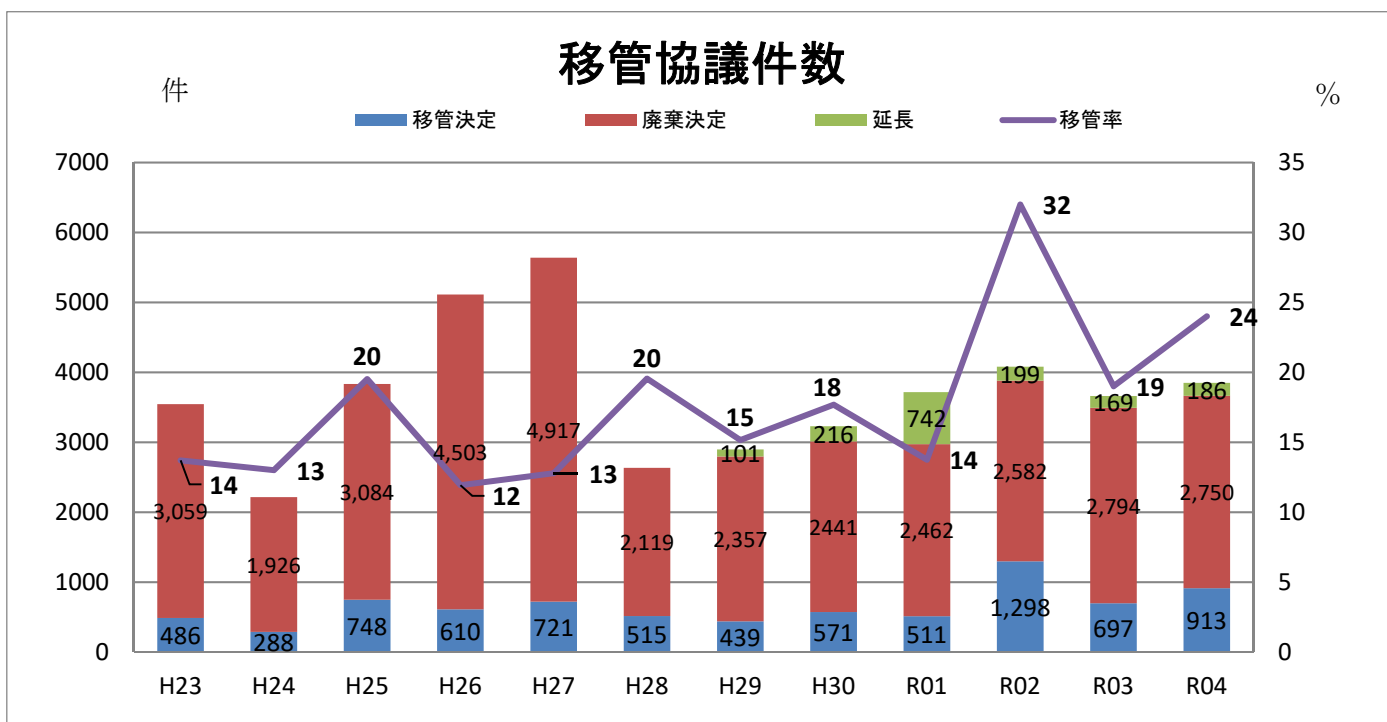
令和4年度法人文書移管協議の結果

移管協議の対象	総件数	協議結果			移管率	移管年度
		移管決定	廃棄決定	延長		
令和4年度末保存期間満了分	3,849件	913件	2,750件	186件	24%	R5

(注1) 「移管決定」の数値は、分冊や関連文書等をまとめて1件とする場合があるため、実際の冊数や受入れ後の目録入力件数とは異なる。

(注2) 移管決定913件には、財務部の旧文書305件(移管決定総件数の33%)を含む。

(注3) 令和4年度第5回大学文書史料室運営委員会の審議時点では、総件数3,849件、移管決定917件、廃棄決定2,751件、延長181件であったが、その後、8部局から修正(移管決定を延長に変更4件、移管追加3件、移管決定から誤登録分を削除3件、廃棄決定から延長へ変更1件)があったため、上表のとおりとなった。



※移管決定件数のうち、令和2年度には工学研究科旧文書155件、旧神戸商船大学文書593件、3年度には農学研究科旧文書160件、4年度には財務部旧文書305件を含む。

1-2. 法人文書等の受入れ状況

【事業計画】 令和4年度における法人文書等の受入れは、次のとおり実施する。

- 法人文書の受入れ(令和3年度法人文書移管協議の結果に基づく移管の受入れ)
 - 期間: 令和4年4月～6月末(予定)
 - 対象: 令和3年度末(2022.3.31)に保存期間が満了したもの
- 学内印刷刊行物の受入れ
 - 期間: 令和4年4月～6月末(予定)
 - 対象: 主に令和3年度に作成された学内印刷刊行物
- 個人・団体からの寄贈寄託文書等の受入れ
 - 期間: 随時
 - 対象: 神戸大学の歴史に係る資料全般

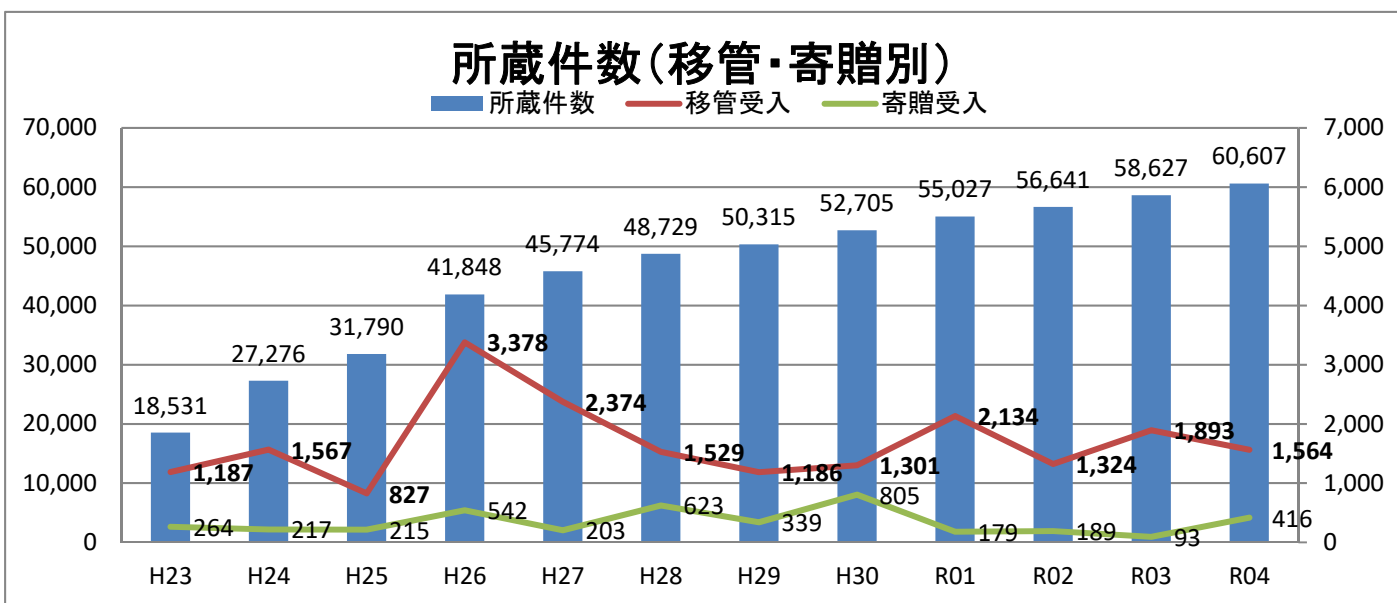
- 令和4年度における法人文書等の受入れ状況は、学内移管文書等 1,564 件、個人・団体からの寄贈寄託文書等 416 件(以上、公文書管理法第2条第7項が規定する「特定歴史公文書等」に該当。)、他大学史等の参考図書 186 件、計 2,166 件である。

令和4年度における法人文書等の受入れ状況

受け入れた法人文書等			受入れ件数	
特定歴史公文書等	学内移管文書等	法人文書(移管協議に基づく移管)	883 件	1,980 件
		法人文書(上記以外の移管)	245 件	
		学内印刷刊行物	436 件	
	(小計)	1,564 件		
	個人・団体からの寄贈寄託文書等	416 件		
参考図書	寄贈図書のうち上記に該当しないもの(他大学史等)		186 件	
合計			2,166 件	

(注1) 「法人文書(移管協議に基づく移管)」の受入れ件数は、移管受入れ時点では 697 件だったが、分冊や関連文書等をまとめて1件としていたため、目録入力時に改めて分冊等ごとに1件としたことにより 883 件となった。

(注2) 「法人文書(上記以外の移管)」とは、神戸大学法人文書ファイル管理簿(神戸大学法人文書管理規則第10条)に未掲載の古い法人文書、職員手控え書類及び門標等のモノ資料を対象とした、移管協議を経由しない移管を指す。計 245 件には、海事博物館からの特別移管 146 件を含む。



1-3. 目録入力

【事業計画】 令和4年度における目録入力は、次のとおり実施する。

なお、インターネット上の目録「神戸大学特定歴史公文書等データベース」は定期的に更新する。

● 対象

- ① 令和4年度に受け入れた法人文書
- ② 令和4年度に受け入れた学内印刷刊行物
- ③ 令和4年度に受け入れた個人・団体からの寄贈寄託文書等
- ④ 前年度に受け入れた法人文書のうち、旧神戸商船大学文書の未整理分(前年度から3年計画)
- ⑤ 前年度に受け入れた個人・団体からの寄贈寄託文書等のうち、未整理分(受入後1年以内)
- ⑥ 令和4年度に受け入れた参考図書

なお、①～⑤は、受け入れ後1年以内の排架・公開を目指す(大学文書史料室利用等要項(国の特歴ガイドラインに基づき制定。以下「利用等要項」という。)第3条第2項)。ただし、④の旧神戸商船大学時代の法人文書(令和3年度受入れ)については、件数が多いため、受け入れ後3年以内(令和5年度末まで)の排架・公開を目指す。

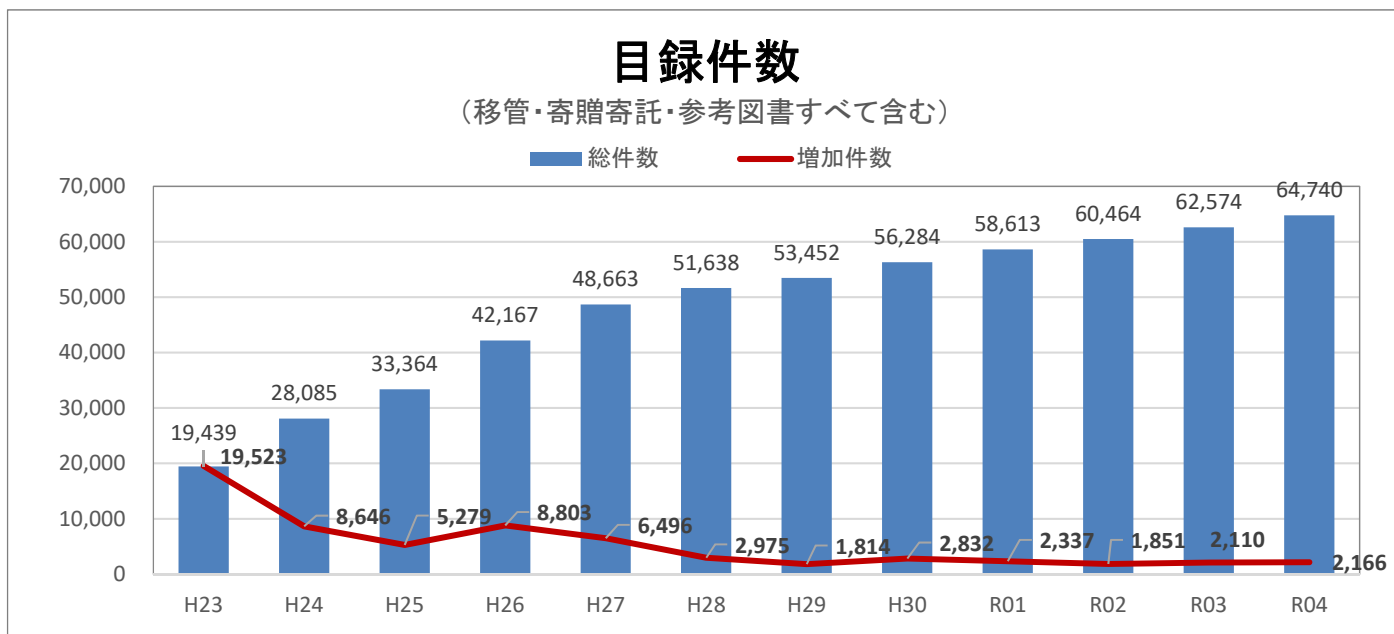
- ・ 令和4年度における目録入力の件数は2,166件であり、目録総件数は64,740件となった。なお、令和5年度末までの3年計画であった旧神戸商船大学関係文書の事後処理は、前年度(令和3年度)に完了済み。
- ・ インターネット上の目録「神戸大学特定歴史公文書等データベース」を毎月定期的に更新した。
- ・ 国立公文書館など全国の公文書館等28館(前年度より2館増加)との横断検索による連携を充実させるため、目録情報2,166件を追加提供し、全国他機関との連携に貢献した。

令和4年度における目録入力実績の内訳

対象		目録入力件数	
特定歴史公文書等	学内移管文書等	法人文書	1,128件
		学内印刷刊行物	436件
	(小計)	1,564件	
	個人・団体からの寄贈寄託文書等	416件	1,980件
参考図書	寄贈図書のうち上記に該当しないもの(他大学史等)		186件
[上記合計] 令和4年度目録入力件数(①)			2,166件
[参考] 平成22-令和3年度目録入力件数(②)			62,574件
目録総件数(①+②)			64,740件

(注1) 「目録」とは、「神戸大学特定歴史公文書等データベース」のことを指す。

(注2) 「目録入力件数」の数値は、受入れ時点の件数とは異なる場合がある(受入れ時点では分冊や関連文書等をまとめて1件とする場合があるため)。また、令和3年度以前受入れ分の遡及入力の件数を含む。



2. 利用状況等

【事業計画】 利用請求等への対応

利用者からの利用請求、簡易閲覧申込み、写しの交付請求に対して迅速かつ確実な対応に努めるとともに、一般利用の促進を図るため、展示会の開催、見学者の受入れ、所蔵資料のデジタル化、国立公文書館との連携による横断検索目録の充実、レファレンス対応(各種照会に対する史料調査及び情報提供)等を積極的に行う。

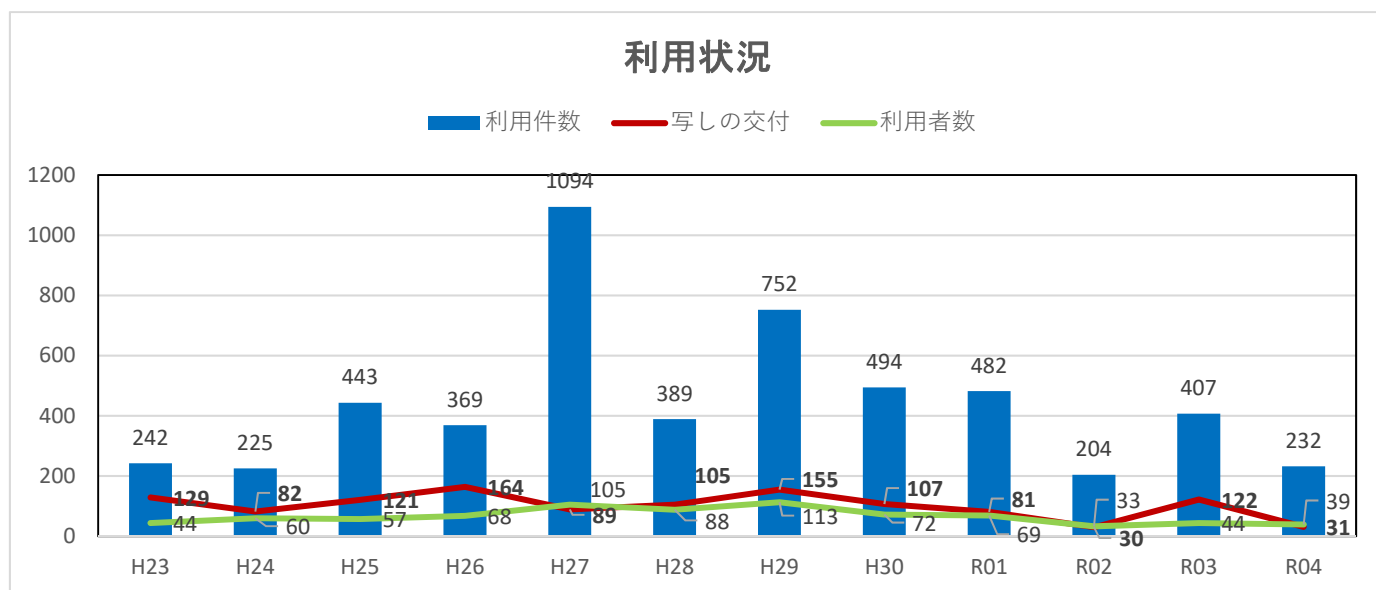
2-1. 利用状況

- 令和4年度における資料利用件数は、前年度より175件減少増加して232件(前年度比57%)、利用者数は、前年度より5名減少して39名(前年度比89%)であり、その内訳は下表のとおり。
- 一般利用者の利用に供するため、展示会及びレファレンス等に積極的に対応した(次項以降参照)。

令和4年度における利用状況

		利用者数	利用件数(注)		
			閲覧(①)	写しの交付(②)	合計(①+②)
本学	教員	5名	90件	0件(0枚)	90件
	教員以外の職員	14名	39件	0件(0枚)	39件
	学生	2名	24件	10件(47枚)	34件
	旧教員	1名	8件	0件(0枚)	8件
	旧教員以外の旧職員	2名	0件	3件(3枚)	3件
	卒業生	1名	1件	0件(0枚)	1件
他大学	教員	1名	0件	1件(6枚)	1件
	教員以外の職員	0名	0件	0件(0枚)	0件
	学生	3名	21件	1件(9枚)	22件
一般	マスコミ	2名	7件	0件(0枚)	7件
	その他	8名	11件	16件(52枚)	27件
合計		39名	201件	31件(117枚)	232件

(注)「利用件数」の数値は、(1)公文書管理法第16条に基づく利用請求の件数、(2)同法第24条に基づく移管元部局による利用の特例の件数、(3)「特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドライン」第22条第1項に基づく簡便な方法による利用の件数の(1)～(3)を合計した件数。



2-2. デジタル・アーカイブの充実及び史料原本保護のための電子化

【事業計画】 史料保存及び利用者の利便性を考慮して、所蔵文書等のデジタル画像（複製物）の作成、インターネット公開、目録データベースとの連携によるデジタル・アーカイブの充実を図る（利用等要項第7条、第22条第2項）。

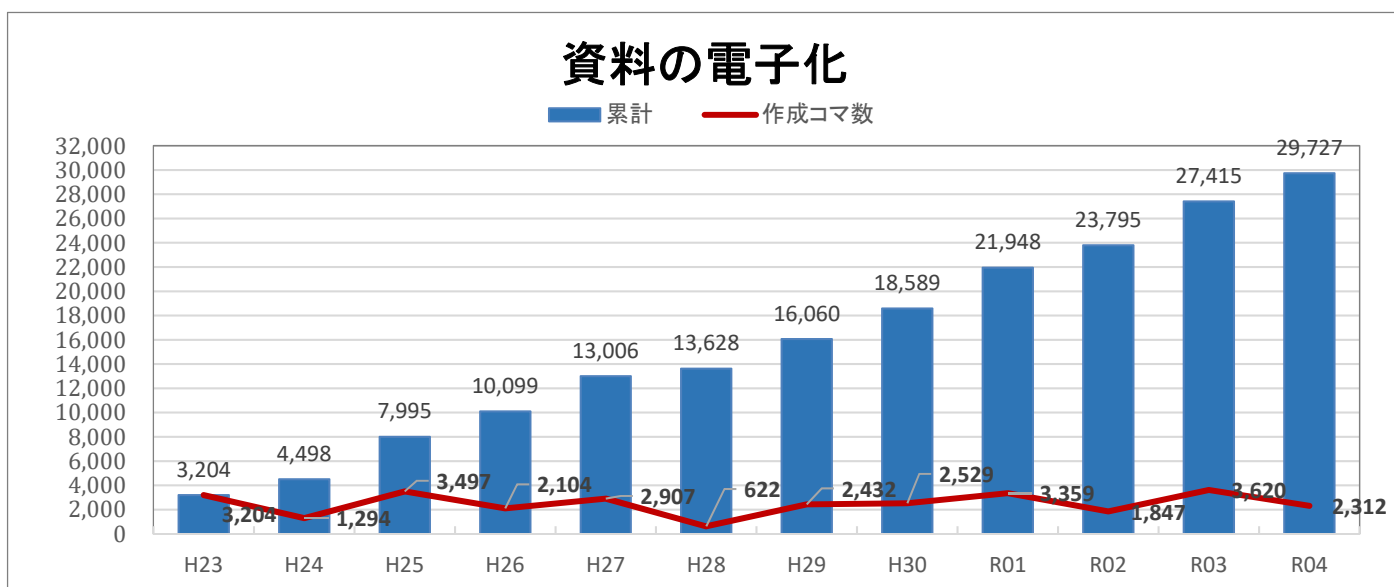
● 対象

- ① 『教養部広報』（印刷刊行物）
対象巻号： 1号（昭和44（1969）年）～最終82号（平成5（1993）年）（作業冊数未定）
作業内容： デジタル画像作成。インターネット公開。令和3年度からの継続事業。
- ② 卒業アルバム1（印刷刊行物）
対象巻号： 旧制神戸商業大学・旧制神戸経済大学（作業冊数未定）
作業内容： デジタル画像作成。平成29年度からの継続事業。
- ③ 卒業アルバム2（印刷刊行物）
対象巻号： 旧制神戸高等工業学校（作業冊数未定）
作業内容： デジタル画像作成。令和3年度からの継続事業。

- ・ デジタル・アーカイブの充実及び史料原本の保護を図るため、(1)『私立川崎商船学校一覧』（大正7年刊）1冊のデジタル画像31点とレプリカ1冊、(2)神戸大学創立百周年写真集用「スライドフィルムアルバム」7冊（スライド1,465枚、大判スライド222枚、平成12-13年撮影）のデジタル画像1,687点、(3)川西祐三郎版画「神戸大学全十八景」全18枚のデジタル画像18点、(4)『神戸大学教養部広報』36号（昭和48年）、47号（昭和51年）、63号（昭和58年）～82号（平成5年）計22冊のデジタル画像448点（令和3年度からの継続事業）、(5)『同前』号外4冊のデジタル画像24点、(6)劣化が進む旧制神戸商業大学の卒業アルバム（所蔵分）の内、5回生（昭和11年）、同簡易版、6回生（昭和12年）簡易版、計3冊のデジタル画像128点（平成29年度からの継続事業）をそれぞれ作成した。
- ・ 利用者の利便性を考慮して、学術的価値及び利用頻度の高い上記(1)(4)のデジタル画像のインターネットでの公開を開始した（(1)10月17日、(4)12月1日公開）。また、令和2年度電子化の『丘人』15冊、『神戸商大新聞』1冊、3年度電子化の『神戸大学教養部広報』55冊のインターネットでの公開を12月1日より開始した。なお、インターネットによる電子化史料公開ページ「デジタル・アーカイブ」（<https://hdl.handle.net/20.500.14094/002001999>）の令和4年度アクセス数は、1,956件（学内969件、学外987件）（前年度比211%）であった。

令和4年度における電子化事業の状況

対象	画像作成	WEB公開
・『私立川崎商船学校一覧』1冊	31点	○
・神戸大学創立百周年写真集用「スライドフィルムアルバム」7冊	1,687点	—
・川西祐三郎版画「神戸大学全十八景」18枚	18点	—
・『神戸大学教養部広報』（主に昭和58年-平成5年刊分）22冊／号外4冊	448／24点	○／準備中
・旧制神戸商業大学の卒業アルバム（昭和11-12年）3冊	128点	—
合計	2,312点	



2-3. 展示会の開催

【事業計画】

「展示その他の方法により積極的に一般の利用に供するよう努めなければならない。」とする公文書管理法第 23 条の趣旨に沿って、神戸大学の歴史に関する展示会を開催する(利用等要項第 23 条)。

なお、展示会の開催に際しては、感染予防対策を徹底するものとし、兵庫県内の感染状況に応じて適宜休止等の措置を検討する。

● 常設展

収蔵物を広く学内外に紹介するため、常設展「神戸大学史展—創立 1902(明治 35)年から現代まで—」を常時開催する(ただし特別展の開催期間を除く)。学内改組等により展示内容の更新が必要になる場合は、経費等を勘案し可能な範囲で迅速に対応する。

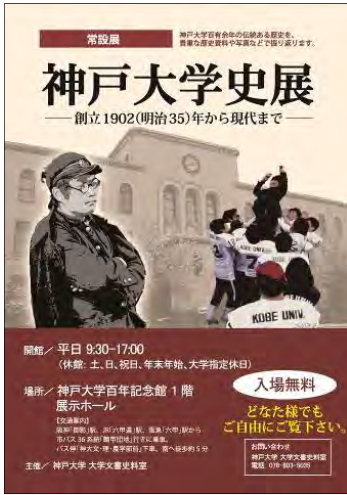
● 特別展・巡回展

- ① 本学ホームカミングデイに合わせて特別展を開催する(10月開催予定。テーマは別途検討(本学創立120周年記念関連を予定))。
- ② 巡回展を3回開催する(神戸開催2回、東京開催1回。会場は11~12月海事博物館、1月東京六甲クラブ、2月社会科学系図書館を予定。各会場の規模に合わせて特別展の内容を再構成)。

- ・ 常設展「神戸大学史展—創立1902(明治35)年から現代まで—」をコロナ禍の感染防止対策を講じた上で実施し、百有余年にわたる神戸大学の歴史に関する文書や実物資料、写真など206点を展示公開した。なお、11月下旬から展示パネルを一新し、近年の情報も追加した。常設展の来場者数は、前年度より314名増加して4,604名(前年度比107%)であった。
- ・ 令和4年度特別展は、本学創立120周年を記念して「神戸大学120年—創立120周年記念—」をテーマに、神戸大学120年の諸相について貴重な歴史資料や写真などで取り上げた。事前にテーマに係る史料の調査研究を実施し、その成果を展示に活用した。会期は10月27日から11月18日までの土・日・祝日を含む23日間。開催に当たっては感染防止対策に努め、来場者数は、前年度より177名減少して1,162名(前年度比87%)であった。なお、来場者アンケート結果によれば、回答者56名中、満足44名(79%)、やや満足11名(20%)、ふつう1名(2%)であり、総合的な満足度99%の高評価を得た。
- ・ 令和4年度巡回展は、神戸で2回、東京で1回開催した。まず、神戸大学海事博物館(神戸)で開催し、会期は11月30日から12月19日までの月・水・金の9日間、来場者数は、前年度より266名増加して309名(前年度比719%)であった。次に、神戸大学東京六甲クラブ(東京)で開催し、会期は1月10日から30日までの土・日・祝日を除く15日間、来場者数は850名、コロナ禍で令和2-3年度が開催中止となったため3年ぶりの開催であった。最後に、神戸大学社会科学系図書館(神戸)で開催し、2月18日から3月27日までの休館日を除く32日間、来場者数は3,651名(コロナ禍のため学外者は入場制限あり)、この巡回展も3年ぶりの開催であった。

令和4年度における展示活動の状況

種類	展示テーマ	開催期間	会場	来場者数
常設展	神戸大学史展—創立 1902(明治 35)年から現代まで—	常時(展示替、特別展開催時を除く)	神戸大学百年記念館 1階 展示ホール	4,604 名
特別展	神戸大学 120 年 —創立 120 周年記念—	R4.10.27(木)– R4.11.18(金)	神戸大学百年記念館 1階 展示ホール	1,162 名
巡回展 (神戸Ⅰ)	神戸大学 120 年 —創立 120 周年記念—パネル展	R4.11.30(水)– R4.12.19(月)	神戸大学海事博物館	309 名
巡回展 (東京)		R5.1.10(火)– R5.1.30(月)	神戸大学東京六甲クラブ	850 名
巡回展 (神戸Ⅱ)	神戸大学 120 年 —創立 120 周年記念—	R5.2.18(土)– R5.3.27(月)	神戸大学社会科学系図書館 2階展示ホール	3,651 名
合計				10,576 名



常設展チラシ



特別展チラシ



特別展(東側)

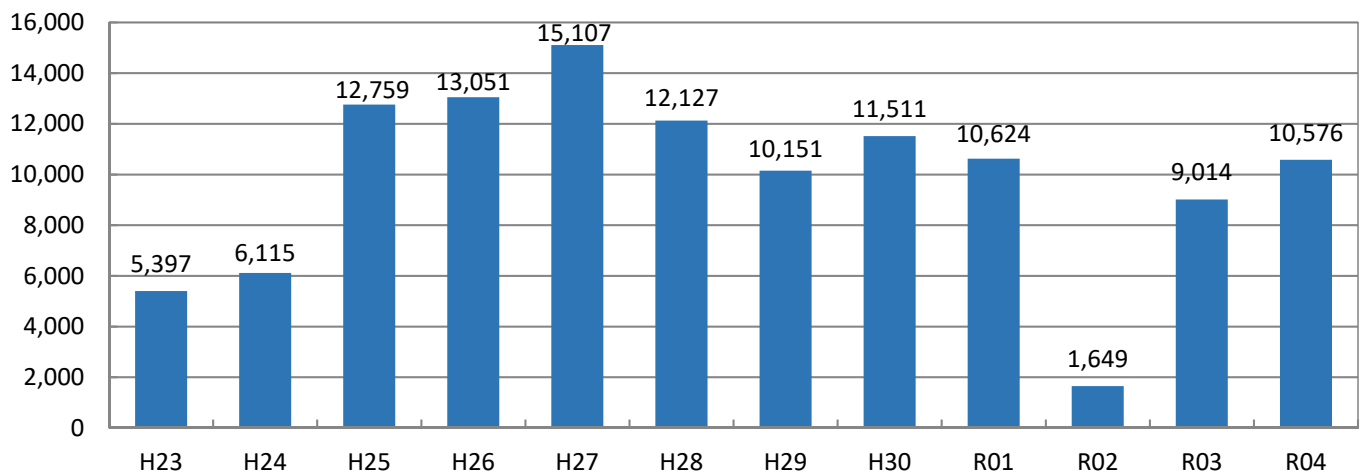


特別展(西側)



巡回展(神戸II)

展示会等入場者数



2-4. 他機関等からの見学受入れ

- 他機関等からの見学が5機関307名あり、その内訳は下表のとおり。

令和4年度における見学の受入れ状況

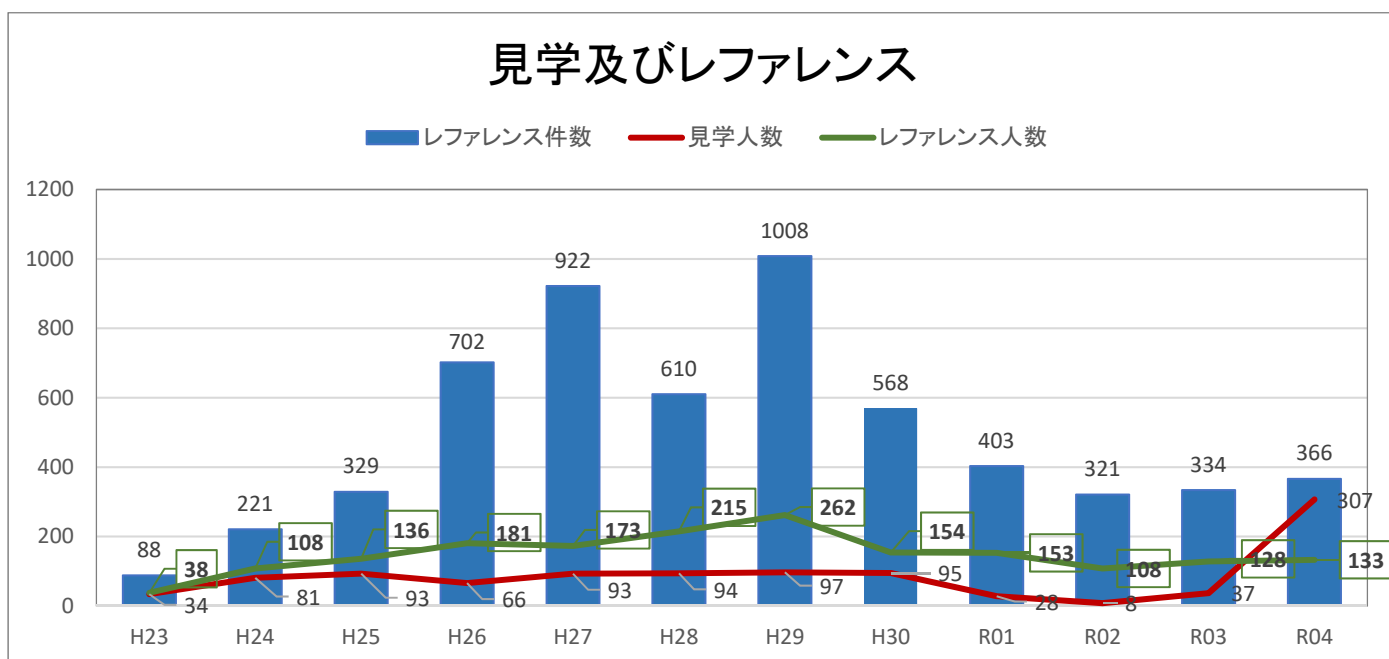
年月日	大学文書史料室を見学した機関	見学者数
R4. 4. 22(金)	神戸大学文学部講義「人文学基礎・地理学」(教員1名、受講生7名)	8名
R4. 4. 11(月)-28(木)	// 総合教養科目「神戸大学史A」(受講生A・B計246名)	246名
R4. 6. 13(月)-30(木)	// 総合教養科目「神戸大学史B」	
R4. 10. 31(月)1限	// 文学部講義「博物館資料保存論」(教員1名、受講生35名)	36名
R4. 10. 31(月)4限	// 法学部講義「3・4年次演習(日本法史)」(教員1名、受講生16名)	17名
合計		5機関307名

2-5. レファレンス対応

- 学内外からの各種照会(主に調査相談)は、366件(前年度比110%)、133名(前年度比104%)あり、それぞれ情報提供を行った。

令和4年度におけるレファレンス活動

対象		件数(人数)	対象		件数(人数)
本学	教員	109件(15名)	他 大 学 一 般	教員	2件(2名)
	教員以外の職員	85件(42名)		教員以外の職員	7件(5名)
	学生	18件(4名)		学生	27件(5名)
	旧教員	16件(6名)		マスコミ関係	20件(13名)
	旧教員以外の旧職員	4件(2名)		その他(周辺住民等)	52件(20名)
	卒業生	15件(11名)		合計	366件(133名)
	関係諸団体(同窓会等)	11件(8名)			



3. 研修その他

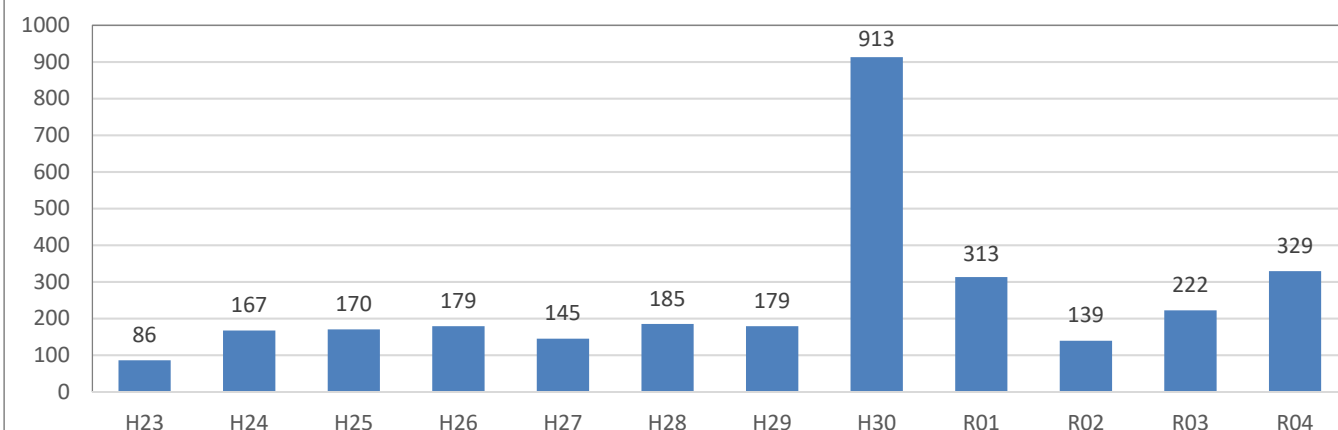
3-1. 研修の実施

- 公文書管理法第 32 条に基づき、本学職員及び大学文書史料室員に対して、次の研修を実施した。なお、全職員(教員を含む)対象の法人文書管理研修(e-ラーニング)は、総務部総務課との共催であり、大学文書史料室は主に講義資料(教材)の作成を担当した。

令和 4 年度における研修実施の内容

研修名	対象者	テーマ・内容	開催日	受講者数	備考
新任教職員研修 (講師派遣)	神戸大学の新任教職員	1)神戸大学法人文書管理について 2)神戸大学の歴史について	R4.4.1(金)から (オンデマンド型遠隔研修実施)	93 名	総務部人事課主催 令和4年度から「神戸大学の歴史」追加
法人文書管理研修(e-ラーニング)	神戸大学の 1)事務系職員 2)教員 3)文書管理者及び文書管理担当者	各対象者向けに下記3つの教材を使用し、1)・2)の教材を作成。 1)神戸大学における法人文書管理業務の一般的な内容 2)教員文書の管理に関する内容 3)適正な文書管理を確保する実施責任者向けの内容(内閣府作成の汎用教材を使用)	通年実施、 R4.12.27(火)から教材更新(オンデマンド型遠隔研修)	229 名	・総務部総務課との共催 ・理解度テスト「ケーススタディ(事例演習)」付き ・教員用教材には解説の音声付き
大学文書史料室研修	大学文書史料室の職員	1)全史料協近畿部会第159回例会参加(あまがさきアーカイブズ見学) 2)総合教養科目「神戸大学史 B」学長講義受講	1)R4.4.28(木)(対面) 2)R4.8.1(月)(対面)	1) 4 名 2) 3 名	大学文書史料室利用等要項 30 条 1 項の規定に基づく室員研修

研修受講者数



3-2. その他

● 内閣総理大臣への令和3年度状況報告

公文書管理法第26条第1項に規定する報告義務に基づき、令和4年9月9日付け神大史室第4-1-1号により、「令和3年度特定歴史公文書等の保存及び利用の状況」を内閣総理大臣に報告した。なお、本報告の概要は、令和4年11月に内閣府大臣官房公文書管理課から「令和3年度における公文書等の管理等の状況について」として公表された。

● 令和4年度全国公文書館長会議への参加

国立公文書館主催「令和4年度全国公文書館長会議」(令和4年6月10日開催)に室長及び室員が出席し、「認証アーキビストの定着と拡充に向けて」及び「学校連携(展示・学習機能)に係る取組」をテーマに情報共有及び意見交換等を行った。

● 規則等の改正

「神戸大学における組織の長の選考に関する規則」制定(令和5年3月28日制定、同年4月1日施行)に伴い、「神戸大学の室に関する要項」が一部改正され、室長の任期を学長任期内とする従来の規定が廃止された(令和5年3月31日改正、同年4月1日施行)。

● 新書庫の設置による収蔵能力向上

自然科学系図書館の改修に伴い、同館内に当室専用書庫が令和5年3月に設置され(同年4月から運用開始予定)、書架総延長が前年度比152%となり収蔵能力が大幅に向上した。

● 神戸大学120年史編集刊行事業(初年度)への協力

当年度開始の神戸大学120年史編集刊行事業(令和4-8年度、5年事業(予定))に全面協力し、事業予算要求、120年史編集委員会及び同専門委員会の資料作成等を実施した。また、令和4年10月1日付けで、120年史担当の特命助教1名(茶谷翔)が採用され、当室に配置された。

● 目録検索システム等の利便性向上

令和4年9月実施のシステム更新に伴い、目録検索システム「特定歴史公文書等データベース」及び電子化史料公開ページ「デジタル・アーカイブ」を利用者の使いやすさを考慮して再構築し、8月末から運用を開始した。このリニューアルによって、スマートフォンやタブレットにおいても円滑な利用が可能となった。

● 温湿度のデータ管理

適正な保存環境を維持するため、書庫、閲覧室、展示ホールの温度と湿度をデータロガーで正確かつ連続的にデータ管理している。

● 史料原本の修復

劣化の著しい扁額「神戸高等商業学校」を永年保存するため、神戸大学地域連携推進本部の松下正和特命准教授の協力により修復することができた。

● 「県立兵庫農科大学カンボジア学術調査」スライド等の公開準備

貴重な歴史的記録である「県立兵庫農科大学カンボジア学術調査」(昭和32年実施)スライド等1,803枚のデジタル画像をインターネット公開(一部非公開)するため、神戸大学大学院国際協力研究科の四本健二教授(カンボジア法)の協力により整理作業を実施した(令和3年度からの継続事業。令和5年度公開予定)。

● コロナ禍における利用者のオンライン利用促進

コロナ禍において、利用者来室不要の遠隔利用を促進するため、電子メール等のオンライン・サービスによるレファレンス(118件)、利用請求受付(26件)、写しの交付(20件)に積極的に対応した。

● 法人文書管理状況監査への同行

総務部総務課が実施する法人文書管理状況監査には例年可能な限り積極的に同行していたが、当年度は事情により同行できなかった。

● 調査研究への協力

次の学外4機関による本学の歴史に関する調査研究にそれぞれ協力し、各事業への支援を通じて本学情報の発信に貢献した。

- 1) 出光興産社史・理念研究所による創業者出光佐三(本学卒業生)関係史料の所在調査に協力した(7-9月)。
- 2) 故・新野幸次郎元学長の追悼行事に協力して、偲ぶ会(令和4年5月7日開催)での追悼スライドショー作成、追悼展示開催、追悼集発行のため史料調査及び各種資料提供を行った。
- 3) 滋賀県守山市うの宗佑企画展実行委員会(守山商工会議所ほか)主催の展示「うの宗佑に学べ!展」(令和4年8月24-31日開催)制作に協力して資料提供を行った(故・宇野宗佑元首相は本学出身)。
- 4) 劇団 LiveUpCapsules 主催の舞台公演「彼の男十字路に身を置かんとす」(後援:神戸市、神戸新聞社、神戸大学、令和5年4月20-23日開催予定)の時代考証及び本学出身の鈴木商店「高商派」に関する史料調査に協力した。

● 寄稿(依頼原稿)

利用者支援及び広報の充実を図るため、執筆依頼に応じて史料の調査研究を実施し、本学広報誌1回、同窓会誌4回、他館広報誌1回の寄稿を次のとおり行った。

- 1) 「100年前に猛威を振るった「スペイン風邪」—大学文書史料室から(42)—」(神戸大学社会科学系同窓会誌『凌霜』第433号、神戸大学凌霜会、令和4年4月号、26-27頁)
- 2) 「120年前の神戸大学—大学文書史料室から(43)—」(同前第434号、同年7月号、20-21頁)
- 3) 「アーキビストに聞く vol.2 野邑理栄子」(『国立公文書館ニュース』第31号、国立公文書館、同年9月1日、8頁)
- 4) 「学長俸給の格差—大学文書史料室から(44)—」(『凌霜』第435号、同年10月号、34-35頁)
- 5) 「「神大」ヒストリー 神戸大学統合研究拠点」(広報誌『風』vol.20、神戸大学総務部広報課、同年12月、2頁)
- 6) 「神戸大学公式マスコットキャラクター「神大うりぼー」—大学文書史料室から(45)—」(『凌霜』第436号、令和5年1月号、22頁)

● 学内各種記念事業等への協力

- 1) 神戸大学120年史編集刊行事業(初年度)に全面協力した(前述)。
- 2) 神戸大学創立120周年記念式典(12月25日開催)のオープニング映像の制作に全面協力した。
- 3) 『神戸大学工学部創立100周年記念誌』(3月刊行)の「第1部 工学部の沿革」の作成に協力した。
- 4) 経済学部オンラインオープンキャンパス2022「キャンパスツアー」動画の作成に協力した。
- 5) 英語版WEB広報誌『Kaze』vol.12(4月刊行)の創立120周年記念特集ページの作成に協力した。
- 6) 『令和4年度学生生活案内』(学務部、4月刊行)の「沿革」(本学沿革図)ページを作成した
- 7) 『神戸大学案内2022-2023』(学務部入試課、7月刊行)の「神戸大学の歴史」ページを作成した。
- 8) 神戸大学広報誌『風』vol.20(総務部広報課、12月刊行)の「神大ヒストリー」ページを作成した。

● 大学史及びアーカイブズ学関連講義の講師担当

本学の歴史及びアーカイブズ学に係る次の講義に協力して講師を担当した(大学史講義3回、アーカイブズ学講義1回、実習5回(3日間))。

- 1) 総合教養科目「神戸大学史A・B」の講師を担当した(前期3回、対面講義)。
- 2) 文学部専門科目「地域歴史遺産保全活用基礎論A」の講師を担当した(前期1回、対面講義)。
- 3) 文学部専門科目「博物館実習C」の講師を担当した(後期5回、対面実習)。

● 講演会の講師担当

本学の歴史に係る次の講演会の講師を担当した(学外主催3回)。

- 1) 東京六甲クラブ主催講演会において講演を行った(5月20日、60分間、オンライン(リアル配信)、参加者23名)。

- 2) 昭和 45 年卒業生主催「卒業'50 周年'記念全学同窓会」において講演を行った(10 月 30 日、30 分間、六甲台講堂、参加者約 100 名)。
- 3) 昭和 33 年卒業生主催「卒業 65 周年記念さんさん会有志の会」において講演を行った(12 月 8 日、50 分間、大阪クラブ、参加者 21 名)。

沿革

2010(平成 22)年 4 月 1 日	神戸大学附属図書館大学文書史料室設置
2010(平成 22)年 4 月 1 日	旧百年史編集室主催の神戸大学史常設展(百年記念館 1 階展示ホール)を継承
2010(平成 22)年 10 月	特別展「神戸大学と戦争—終戦 65 周年記念—」を開催(10 月 25 日-11 月 5 日) (以後、毎年度テーマを変更して特別展を開催)
2011(平成 23)年 4 月 1 日	「国立公文書館等」の政令指定を受ける
2011(平成 23)年 4 月 1 日	一般利用開始
2011(平成 23)年度	全学対象の移管受入れを開始(以後、毎年度定期的実施)
2018(平成 30)年 4 月 1 日	神戸大学大学文書史料室に改組

歴代大学文書史料室長

福長 進 (人文学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
大塚 裕史 (法学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
木下 資一 (国際文化学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
大津留 厚 (人文学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
浅野 慎一 (人間発達環境学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
中野 俊一郎 (法学研究科(法科大学院)教授)	平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 9 月 30 日
小野 博司 (法学研究科教授)	令和 2 年 10 月 1 日～現在

令和 4 年度 評価と課題

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症による活動制限がやや緩和され、「神戸大学の活動制限指針」が「レベル1(一部制限)」に下がったことから、当室では、感染拡大防止に配慮した上で、ほぼ通常どおりの活動内容に戻すこととした。

当年度の特筆すべき事項は、自然科学系図書館改修に伴う当室専用新書庫の設置、神戸大学120年史編集刊行事業(初年度)への協力と120年史担当特命助教1名の当室への配置、システム更新に伴う目録検索システム等の再構築である。また、政令指定機関としての法的義務を全うするため、歴史公文書等の受入れ、目録入力、利用請求の対応、展示活動、職員研修、電子化事業、内閣総理大臣への状況報告、見学受入れ等を実施、学内外の各種事業、大学史等関連授業、大学広報、同窓会活動等に協力して史料調査、講師派遣、寄稿、講演、マスコミ対応等を行った。さらに、当年度が神戸大学創立120周年に当たるため記念式典や広報等に全面協力した。

今後の課題としては、新設された当室専用書庫の適正かつ円滑な運用、電子文書の受入れ・長期保存・利活用に向けた整備、歴史公文書等の評価選別基準の見直しに向けた検討、多言語対応を含む効果的な展示の工夫、展示物の複製化、eラーニング研修教材の充実、利用支援のオンライン対応等が挙げられる。

神戸大学大学文書史料室概要（令和5年4月1日）

- (1) 名称： 神戸大学 大学文書史料室（英文名 Kobe University Archives）
- (2) 住所： 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学百年記念館1階
- (3) 設立： 平成22年4月1日
- (4) 政令指定： 平成23年4月1日（内閣総理大臣指定「国立公文書館等」）
- (5) 目的： 「大学文書史料室は、特定歴史公文書等（公文書等の管理に関する法律（平成21年法律第66号）第2条第7項に規定する特定歴史公文書等のうち、大学文書史料室に移管され、又は寄贈され、若しくは寄託されたものをいう。）その他本学の歴史に係る資料を保存するとともに、一般の利用に供することを目的とする。」（「神戸大学の室に関する要項」第3条）
- (6) 延床面積： 300㎡（内訳：閲覧スペース12㎡、事務室19㎡、作業室28㎡、書庫159㎡（102㎡、18㎡、39㎡）、展示ホール63㎡、観覧スペース19㎡）
- (7) 職員数： 兼任教員（室長（法学研究科教授）） 兼任1名
専任職員（室長補佐（主任政策研究職員）） 1名（認証アーキビスト）
特命助教（120年史担当） 1名（令和4年10月～）
事務員（再雇用職員） 兼任2名
事務補佐員（週30時間） 1名
事務補佐員（週12時間） 1名
- (8) 所蔵文書： 目録登録総数64,740件（内訳：特定歴史公文書等60,607件、参考図書4,133件）
代表的な収蔵文書は下記のとおり。

○前身学校

- ・旧制神戸高等商業学校文書（明治35年～昭和4年） 約1000点
- ・旧制神戸商業大学・神戸経済大学文書（昭和4年～昭和27年） 約1600点
- ・旧制姫路高等学校文書（大正13年～昭和24年） 約300点
- ・旧制神戸高等工業学校・工業専門学校文書（大正10年～昭和26年） 約700点
- ・旧制御影・姫路師範学校等附属小学校文書（明治20年代～昭和24年） 約550点
- ・県立農科大学・兵庫農科大学文書（昭和24年～昭和44年） 約170点
- ・神戸商船大学文書（昭和24～平成15年） 約600点 など

○神戸大学

- ・神戸大学設置関係文書（昭和20年代） 約10点
- ・神戸大学学報（昭和25年～平成7年） 約500点
- ・神戸大学評議会議事録等（昭和24年～平成初期） 約150点
- ・県立大学国立移管関係文書（昭和30、40年代） 約20点
- ・旧姫路分校文書（昭和20、30年代） 約200点
- ・旧御影分校文書（昭和20、30年代） 約400点
- ・各教授会記録（昭和20年代～平成初期） 約700点 など

○個人・団体

- ・旧制神戸商業大学初代学長田崎慎治旧蔵文書 約120点
- ・旧制神戸商業大学予科同窓会凌霜思誠会旧蔵文書等 約200点
- ・旧制兵庫県明石女子師範学校同窓会明玉会旧蔵文書等 約200点 など



旧制神戸高等商業学校・神戸商業大学の蔵書印
神戸大学附属図書館蔵
(令和4年度特別展「神戸大学120年」より)

令和6年1月

神戸大学 大学文書史料室

<https://lib.kobe-u.ac.jp/archives/> archives@lib.kobe-u.ac.jp